

平成 22 年度第 2 回我孫子市自殺対策協議会会議録

1 開催日時

平成 22 年 11 月 16 日（火） 午後 7 時～午後 8 時 45 分

2 開催場所

我孫子市役所 分館大会議室

3 出席者

（委員） 13 人

（事務局） 4 人

4 傍聴者 0 人

5 課長挨拶

本日はお忙しいところ、またお疲れのところ、会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

さて、本日は、自殺対策協議会の第2回となります。前回の会議のあと、委員の皆さまからご意見をいただきました来年度の協議会の取り組み等について、協議していただきたいと思います。

また、9月議会において、協議会の具体的取り組みについての質問を受けまして、自殺対策について、より広く、多くの市民の方に関心を持っていただくため、市のホームページで自殺対策キャッチフレーズの募集をいたしました。本日はその応募作品の中から、受賞作品の選定を皆さまにお願いしたいと思います。

それと、今年度の啓発活動の一つといたしまして、柏市と合同で「自殺予防対策フォーラム2010」を来年2月19日（土）にけやきプラザにて実施することとなりました。内容につきましては、のちほど事務局のほうから説明があると思います。

今後とも、この協議会において、委員の皆さま方の立場からいろいろな角度からのご意見等いただきながら、また、自殺予防に関するさまざまな啓発活動等を通しまして、総合的な自殺対策に取り組んでいきたいと思います。

皆さま方のご協力をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

6 議題

- (1) 社会福祉法人「千葉いのちの電話」の取り組みについて
- (2) 松戸健康福祉センター管内の状況について
- (3) 平成 23 年度協議会の取り組みについて
- (4) 自殺対策キャッチフレーズの選定について
- (5) 自殺予防対策フォーラム 2010 について

7 議事（要旨）

- (1) 社会福祉法人「千葉いのちの電話」の取り組みについて

会長：

よろしくをお願いします。

それでは、社会福祉法人「千葉いのちの電話」の取り組みにつきまして、ご説明していただきたいと思います。

委員：

去年の活動を中心として、資料に沿って説明。

(要旨)

- ・「自殺予防 いのちの電話」について

毎月 10 日は、フリーダイヤル 24 時間体制でいのちの電話を開設しています。

- ・千葉いのちの電話が設立して 21 年になります。電話台数は 4 台を 5 体制でうけています。2009 年 12 月までの累計で 469,663 件となっています。昨年度は 25,743 件で男性 11,511 件、女性 14,124 件、電話の声では男性か女性の区別がつかない方＝不明が 108 件です。

- ・インターネット相談について

昨年度、インターネット相談は 162 件です。特に 30 代からの相談が目立っています。メールでの回答については、一人で判断するのではなく、相談員が話し合ってから返信するようになっています。

- ・問題内容別相談件数について

生き方がわからない、生きる希望が持てないといった「人生」に関する相談が 33.5%を占めています。

「家族」これは、親子間の相談が中心ですが、この問題についてはとても深刻に感じております。

「対人関係」については、今の時代を反映しまして、会社での人間関係や学校でのいじめです。学校でのいじめは学生時代だけでなく、大人になってからもひきこもりになってしまいますので、大きな問題です。

いのちの電話相談員は専門員ではありません。相談者には、それぞれの内容に応じた専門の機関があるという形で、ご紹介させていただいています。

・精神障害相談件数について

治療中の方が 33.4%となっています。話し相手がいる、自己肯定できればとても楽になると思いますので、病院以外にもじっくり相談できる機関がもっとあったら良いのではないかと思います。

・自死遺族支援概況 わかちあいの会「ひだまり」について

今年度からは、柏市でも隔月開催するようになりました。

会長：

ただ今、いのちの電話の取り組みにつきましてご説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。

委員：

学校でのいじめ問題は、小中学校、高校とあると思いますが、どの年代からの相談が多いのでしょうか。

委員：

学生から相談があるということではありません。過去にいじめられた経験をひきずってしまっている方が、大人になってから相談するということです。いじめている側は、いじめているという自覚がないようです。どんな言葉とか態度が、人を傷つけてしまっているかを気づかせる教育が大切だと思います。

会長：

他にご意見等ございませんでしょうか。

ないようでしたら、次の議題に入ります。

(2) 松戸健康福祉センター管内の状況について

会長：

続きまして、松戸健康福祉センター管内の自殺の状況につきまして、ご説明をお願いしたいと思います。

委員：

管轄する松戸市・流山市・我孫子市の状況について、資料に沿って説明。

(要旨)

・自殺の統計資料には、厚生労働省が行っています日本人を対象とした「人口動態調査」と、警察庁が行っている総人口を対象に発見地で統計をとる「自殺統計調査」があります。それでは、人口動態調査をもとにした管内の状況について説明します。

・平成 21 年の自殺者数は、千葉県全体では 1,326 人、松戸管内で 164 人となっています。

・過去 5 年間の管内年齢別自殺者割合

男性は 112 人～113 人とほぼ同じくらいの割合で推移しています。女性については、40 人～60 人とばらつきがあります。

・管内の自殺粗死亡率の推移

千葉県自殺対策推進計画では、平成 17 年の自殺者数を平成 28 年までに 20%下げること为目标としています。

我孫子市において、男性の平成 17 年自殺粗死亡率（人口 10 万人あたりの死亡者数）は 15.2 でしたので、平成 28 年の目標値は 12.1 となります。人数でいうと、8 人となります。

女性につきまして、目標値 8.4 で、6 人となっています。

・管内各市年齢調整死亡率の推移

我孫子市において、男性につきましては、22.1 で千葉県平均 25.3 より低く、女性につきましては、13.0 で千葉県平均 9.6 より高くなっています。

・我孫子市の自殺者数の推移

平成 10 年に急増し、平成 19 年にはもっとも多い 35 人で平成 21 年は 29 人となっています。

・我孫子市年齢別自殺者数割合

平成 21 年の自殺者数を見ますと、男性 19 人のうち、40 歳代が 6 人、30

歳代と 50 歳代が 4 人となっています。女性は、10 人となっています。

・年齢階級別死亡率・我孫子市男性

千葉県との平均と比較しますと、50～54 歳、65～79 歳までの階級が県平均より高くなっています。

・年齢階級別死亡率・我孫子市女性

千葉県との平均と比較しますと、ほぼどの年代でも県平均より高い数値となっています。特に、35～39 歳と 80～84 歳までの階級が高い数値となっています。

会長：

ただ今、松戸健康福祉センター管内の自殺の状況につきまして説明がありましたが、このことでご質問やご意見などございますか。

会長：

我孫子市の特徴として、男性は高齢者の自殺率が高く、女性ではどの年代も高いと考えて良いでしょうか。

委員：

ここ 5 年間のデータを見ますと、その通りだと思います。

昨年、千葉県におきまして、65 歳以上の自殺率を見ますと、最も高いところは、男性では長生地区、女性では野田市となっております。

会長：

他にご意見等ございませんでしょうか。

ないようでしたら、次の議題に入ります。

(3) 平成 23 年度協議会の取り組みについて

会長：

それでは、平成 23 年度の取り組みにつきまして、事務局のほうで、なにか見解などあれば、説明をお願いします。

事務局：

それでは、皆さまからのご提案につきまして、事務局の考えとして、資料3にあります7つの項目にそってご説明いたします。

1「公開講演会、啓発活動（住民向け自殺予防のためのパンフレット等作成・配布）」ということにつきましては、来年度も、自殺予防研修会の開催とリーフレットの作成等を通して、啓発活動を行いたいと思います。

2「地域における連携体制の確立 地域において自殺対策活動を行っている公的機関・民間団体・地域の多様な関係者の確かな連携協力体制の確立」というところでは、我孫子市においては、この自殺対策協議会がその組織にあたると思いますので、来年度も、この協議会において、情報交換等を通して連携協力体制を図っていきたいと思います。

3「うつ病に関する連載記事（コラム）を市のホームページや広報に掲載する」ということにつきましては、資料3-2をご覧ください。

この資料は、会長から啓発活動の一つとして、うつ病についてのコラムを連載したらどうかということでご提案いただきました。どうしてもうつ病がネガティブなものとして広報されがちなので、もう少し気軽に相談できるようにできないかということで、このコラムを市のホームページの自殺対策のページにて掲載していきたいと考えております。

また、このホームページのコラムをみていただいた方たちからのご意見や感想等を、例えばメールなどで回答していただくようなことにつきましても、広報担当や担当課である障害福祉担当とも調整しながら、来年度、検討していきたいと思います。

4「適切な医療機関・相談機関への紹介 精神疾患の早期発見」につきましては、まず適切な医療機関・相談機関への紹介は、自殺予防においてとても大切なところだと思います。相談された方が、身近な医療機関で気軽に受診できるような体制について、この協議会の委員でもある「いのちの電話」、「医師会」など関係機関と情報交換しながら、自殺予防の充実を図っていきたいと思います。

また、精神疾患の早期発見につきましては、これまでもかかりつけの医師、薬局の窓口等での気づきが自殺予防につながっている大切なところだと思いますので、関係機関との連携をさらに深めていきたいと思います。

5「市民ボランティア団体として自殺予防の相談電話体制（出張相談窓口を含

む)の充実・相談員の確保」と

6「社会の人々の行動・コミュニケーションの多様化より幅広い年齢層を視野に入れた相談活動（インターネット相談）・広報活動」

の2点につきまして、市の体制としては、福祉相談窓口を設置しております。福祉サービス全般の相談を受けておりますが、自殺という観点をもって、相談を受けることが大切であると考えておりますので、相談職員が自殺対策研修等を受講することで、より資質を高めていきたいと考えます。

相談電話体制の充実・相談員の確保では、市民ボランティア団体が現在育成されていないところもあり、また、インターネット相談等に対応する自殺予防の専用窓口の設置等は、市職員の人的な配置は難しいと思われまますので、「いのちの電話」や県の相談機関等、専門の相談窓口につなげることで、自殺予防を図っていききたいと思ひます。

7「遺された人の苦痛を和らげる（自死遺族支援） 遺された人の心理的影響を和らげるためのケアを行うとともに、遺族のための自助グループ等安全な活動の場の確保」

こちらにつきましては、もう少し広域的な範囲での取り組みが必要と思われまます。今日欠席されていますが、千葉県精神保健センターの方に、千葉県の取り組みについてお聞きしたので、ご紹介いたしまます。

千葉県（健康づくり支援課所管）では、「千葉いのちの電話」事務局にある自死遺族支援団体「わかちあいの会」に委託して、遺族のための自助グループの開催、自死遺族を支援する人材育成を行っていまます。

精神保健センターにおいては、遺族の方から電話相談があつた場合など、「わかちあいの会」を紹介していまます。

また、千葉県主催の研修事業等におきまして、わかちあいの会の方を講師とした研修会を実施していまます。

皆さまから出されまました来年度の取り組みにつきまして、事務局としての考えは以上のおりでございます。ご審議のほどよろしくお願ひしまます。

会長：

ただ今、平成23年度の取り組みについて、事務局の見解がありましたが、このことにつきまして、皆さまのご意見をお願ひいたしまます。

委員：

自殺した原因がよくわからないケースが多いように思われます。統計的なところは出ていますが、警察からの情報提供等も得ながら、我孫子市の自殺の実態につきまして、もう少し掘り下げて考えていったらどうでしょうか。

委員：

NPO 法人ライフリンクが発表した「自殺実態白書」というものがあります。自死遺族 1000 人を対象としたもので、2008 年段階で 305 人の方の調査が進んでおります。そのデータを使用することも良いかと思えます。

啓蒙活動とあわせて、我孫子市の実態に沿った対策を進めていったら良いと思えます。

委員：

警察医を担当しております。我孫子市で不審死といわれるものは年間 150 件で推移しております。これには、交通事故や殺人等も含まれます。

自殺の原因につきましては、病死が半数を占めております。女性では、20 歳代～30 歳代の方、男性では 40 歳代と 60 歳代の方が多いです。また、経験上、うつ病の方で通院治療中の方がほとんどです。

自殺の手段としては、一番多いのは首つりです。練炭自殺もあります。対策のひとつとして、ホームセンター等に協力してもらい、ロープや多量に練炭を購入した方の情報を、生活安全課に連絡するといった方法も考えられます。

委員：

全般的なこととして、取り組み方としては二つあると思えます。ひとつは、悩みをかかえている方が、相談する相手もない中で、自殺まで思い悩まないようにすること、それともう一つは、それでも自殺しようと思ってしまった方が、最後にふみとどまるために「いのちの電話」等の相談窓口がすぐ気がつくようにするというような啓蒙活動が必要だと思えます。

また、自死遺族支援では、遺族の方が地域の中で悩みを打ち明けることは難しいと考えます。同じ境遇の方が集まって、たとえば市内に組織はなくても良いと思えますし、柏市で取り組みがはじまった支援団体等で分かちあうといったことが大切だと思えます。

会長：

ホームセンターに協力要請するといったご意見がありましたが、これについてはいかががでしょうか。

委員：

販売店から購入者を教えてもらうのは難しいと思います。たとえば、店頭で「いのちの電話」のステッカーを貼ることも一つの手段ではないかと思えます。

事務局：

今年はリーフレットを医療機関等に配布させていただきました。新しいところを開拓することも大切だと考えますので、皆さまからのご意見等参考にしながら、配布先の検討をしていきたいと思えます。

委員：

我孫子市の実態を知るため、自殺にいたるまでの様々な要因について、警察からどの程度情報を開示していただけますか。

委員：

今日、お話できる情報といたしましては、平成22年度、昨日までに亡くなられた方が149件、その内、自死の件数が33件、22%となっています。

今日の会議に出席いたしまして、自死遺族支援についての警察の取り組みとして気がついたことですが、警察が遺族の方と接触する機会があるので、その際に自殺予防のリーフレット等お渡しするなどして、相談窓口の紹介等をさせていただきたいと思えます。

情報提供につきましては、刑事課とも協力しながら、お伝えできるものについては、できる限り情報開示していきたいと思えます。

委員：

改めて新しいことを人員を増やして実施するという事は難しいと思えます。統計では、30歳代女性と高齢者の自殺者が多いので、例えば30歳代女性については、保健師がお母さんを訪問する際の声がけであるとか、産後うつ

の調査の際などの機会にフォローすることもできると思いますし、また高齢者には、介護保健や高齢者担当の協力によって、予算等かけなくても取り組めることもあると思います。

また、講演会を実施しても興味のある方しか参加しないので、広く啓発していくためには、運動会等お子さんが集まる機会にお父さん、お母さんに周知していただけないかと思います。

会長：

貴重なご意見ありがとうございました。もしよろしければ来年度の会議の中で、警察から情報開示できるものについてお話が聞けたらと思います。

今日、新たに皆さまから出されましたご意見につきましては、事務局で検討いただきたいと思います。

それでは、次の議題に入ります。

(4) 自殺対策キャッチフレーズの選定について

会長：

それでは、自殺予防キャッチフレーズの選定につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局：

それでは、自殺対策キャッチフレーズの選定につきまして、ご説明いたします。資料4をご覧ください。

今年度の啓発活動の一つとして、より広く市民のみなさんに自殺予防の大切さを知っていただき、市全体で取組を進めていくために「自殺予防」につながるキャッチフレーズを募集いたしました。募集内容は資料4のとおりです。

あらかじめ、皆さまに選定をお願いしました結果につきまして、集計が出ましたので報告いたします。

一番得票の多かった作品は

「話してね あなたの悩み 心の中を」と

「どうしたの あなたの気づきが いのちを救う」の2作品が同票です。

次に多かったのは

「つなぎたい いのちを救う 心のきずな」です。

よろしければ、この中から最優秀作品と優秀作品の選定をお願いできればと思います。

会長：

ただ今、事務局より自殺予防キャッチフレーズの選定について説明がありました。今日の協議会で受賞作品の選考を行うこととなっております。ご意見をお願いいたします。

委員：

選ばれた3作品のキャッチフレーズが、一つ目は不特定多数に向けたもの、二つ目は自殺を考えてしまっている人向け、三つ目はご家族など周囲の方に向けてのものとなっています。どこにスポットをあてて発信していくのか、ということをはっきりしないといけないと思います。

委員：

キャッチフレーズについては、1つに決めなくて良いと思います。

みんなに支えてもらいたいという願いをこめたものと、思い悩んでしまっている当事者に向けてのものと2種類選んでいただき、2通りの使い分けができるかと思います。そういった視点から選定しました。

委員：

一般向けの自殺対策パンフレット等で標語として使うのであれば、自殺を他人事と思っている方に関心をもってもらうためにも、当事者向けよりも周囲の方向けの標語のほうが良いと思います。

委員：

最優秀作品1点だけをリーフレット等のタイトルとして採用するのであれば、そのリーフレットがどこに向けての内容になるのかによって、選定する標語が違ってくると思います。

委員：

優秀作品については、優秀賞のみでキャッチフレーズとしてはまったく使わないのでしょうか。そうすると、最優秀作品と優秀作品を選んだ基準が、また違ってくると思います。

委員：

わたくしも同じように二つの視点があることを念頭に選定しました。なので、最優秀作品の一つだけこの協議会の活動のキーワードとして採用するというのではないと思います。それぞれちがう視点で選定しましたので、一つだけ選ばず、必要に応じて使い分けることもできると思います。

委員：

最多得票数が2作品ならば、両方とも最優秀作品としたらどうでしょうか。

会長：

2作品とも最優秀作品とすることについて、事務局はいかがでしょうか。

事務局：

2作品とも最優秀作品といたしたいと思います。

(5) 自殺予防対策フォーラム 2010 について

会長：

それでは、自殺予防対策フォーラム 2010 につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局：

それでは、自殺予防対策フォーラム 2010 につきましてご説明いたします。
資料 5 をご覧ください。今年度の啓発活動として、来年 2 月 19 日に「自殺予防対策フォーラム 2010」をけやきプラザにて開催することとなりました。
この事業は、柏市と我孫子市の共催事業として実施いたします。
第 1 部で、木の実ナナさんのトークショーを、第 2 部では自殺予防総合対策センターの川野健治さんの講演となっております。

12月1日号の広報にて掲載、募集してまいりたいと思います。
事務局からは以上です。

会長：

それでは、これを持ちまして、平成22年度第2回我孫子市自殺対策協議会
を閉会いたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

以上